



海城中学高等学校の「留学規定」は平成24年にできました。高校在学中にこの制度を使って海外の学校に留学している生徒は既に10人ほどになります。本校の留学制度の特色は、海外の学校での1年間の学業成績を、本校での1年間の学業成績として認め、36単位を認定するというものです。(勿論クリアしなければならない諸条件はあります。詳細は生徒手帳に掲載されています)

さて、この留学制度を使っての第1号の留学生は今年の春に卒業した佐鳥君です。佐鳥君は高1の夏にアメリカに渡り、高2の夏に帰国しました。そして今春、現役で東京大学に合格しました。佐鳥君の留学体験記を何回かに分けて掲載します。是非参考にしてください。

### 私のアメリカ留学(1)

佐鳥蒼太郎

・はじめに

みなさんこんにちは。東京大学理科1類の佐鳥蒼太郎(さとりそうたろう)です。今回は私の留学体験について後輩に伝えるために文章を書いてほしいという、グローバル教育部の春田先生の依頼を受け、この文章を書いています。グローバル化の進む現代において国際的な視野を持つことは世界のリーダーとなる海城生にとって必要不可欠なもののひとつです。留学をすると自分が今までどれだけ小さな範囲の中で生きてきたかが否応なしに思い知らされます。ぜひ、この文章を読み留学に興味を持ってもらい、その中で私の後に続き、海城から留学をしてくれる後輩が出てくれると非常にうれしいです。(東京大学の入学式の佐鳥君→)

私の留学体験について書く前に、その前提となる知識について説明したいと思います。まず、私はAFS(American Field Service)という団体の提供するプログラムにのっとって留学しました。AFSは高校生の交換留学のプログラムを短期、長期を問わず提供しており、ごく一部の職員を除いてはボランティアにより運営されています。長期プログラムの場合、留学先ではホストファミリーと一緒に暮らすことになります。長期プログラムはその出発時期から夏組、冬組に分けられます。冬組を構成する国は主に南半球の国で12月から1月にかけて出発し、夏組は主に北半球の国で6月から8月にかけて出発します。冬組は出発時点で高校1年生か2年生であることが必要ですが、夏組には制限はありません。このため今この文章を読んでいる海城生のうち、AFSの2015年度募集プログラムで留学することのできる人は冬組では高1または高2で今年の年末以降に出発し、夏組では中3から高2で来年の夏に出発することになります。

・留学決定まで

それではまず留学しようと思った動機について説明します。私は小学校在学時に3年間香港



に父親の仕事の都合で住んでいました。その時に様々な人種のチームが属する野球のリーグに参加していた時の体験が私を留学へと意識させてくれました。同じ野球のチームとはいえ人種ごとにチームカラーに大きな違いがあります。それぞれが大事にしていることが全く違うのです。当時の私には大きなカルチャーショックになり、香港という狭いながらも国際色豊かな空間でこの世界に存在する様々な価値観に触れることができました。そして、再び新たな価値観に触れてみたいと思いました。そう考えたときに私の中で出てきた答えが『留学』だったのです。

その後、激しい中学受験勉強、そして楽しい海城での中学校生活のなかで一時は留学へ向けての動きは停止していましたが、中学2年生の後半に再び留学に向けて動き出しました。というのも大学入試への、また部活動への影響を最小限に抑えるために高校1年生の時に留学しようと思っており、そのためには中学3年生の時に試験等を受けなければならなかったからです。前々から両親とも留学については相談しており、両親も留学に対して前向きなこともあり、親との交渉は早々と終了し高校生交換留学プログラムを提供している団体へ資料請求を始めました。資料を読み結局2つの団体まで絞り込んだうえで留学説明会に参加し、業界最大手のAFSのプログラムで1年間留学することに決めました。

留学するということを決めた後はどこに留学するかということを決めなければなりません。これもスムーズに決まりました。というのもやはり留学といえばアメリカというイメージがあり、そして単純にアメリカに行ってみたいという考えがあったからです。両親に行先の国に対し特にこだわりがなかったということもスムーズに決まった要因の一つかなとは思っています。

・留学試験

留学といってもお金を払えばそれで行けるわけではありません。試験を受けてそれを突破する必要があります。AFSの場合、大きく分けて3つの試験形態、一般選考・指定校推薦・支部選考があります。一般選考の試験はAFSの場合、SLEPというTOEFLの高校生版のようなもの、日本に関する一般常識、面接の3つのパートに分かれています。他の団体も大体こんなものだと思います。海城はAFSの指定校には入っていないので残念ながら指定校推薦で留学するのは難しいでしょう。支部選考もAFSの場合一般選考で埋まりきらなかった枠を埋めるだけのものなので避けるのが得策です。SLEPは海城の英語の授業で平均点をとっておいて、対策問題集を一通り解いておけば大丈夫と思いますが、アメリカに行く場合は高得点が必要になるので+αの英語の勉強が必要になります。一般常識に関しては中学受験を乗り越えた海城生ならば大丈夫です。海城生にとって一番ネックになってくるのが面接だと思います。が、積極的に面接官との会話に参加して、かつきちんとした留学への志望動機を伝えることができれば大丈夫です。一般試験は6月と7月に大きなものがあり、これらで余った枠にはその後10月の試験があります。ただ、10月には自分の希望する国の枠が余っていない可能性があるため6月または7月の試験を受けることをお勧めします。ちなみに自分は7月の試験を受け、希望通りアメリカ合衆国への留学が内定しました。

・留学出発まで

留学内定から留学までにやらなければならないことはAFSの場合大きく分けて二つあります。一つは留学に必要な書類の記入等の各自でやることで、もう一つはオリエンテーションへの参加です。オリエンテーションは出発前に2回、出発後に1回の参加が義務になります。出発

前のオリエンテーションは留学内定直後の夏に1回、出発1～2か月前に1回になります。オリエンテーションではAFSの歴史や理念についてや留学先での注意事項等を学ぶほか、様々なレクレーションをして同じ目的を持つ仲間と親しくなれます。日常生活に女子のいない海城生にとっては数少ない女子ときちんとはなすことのできる貴重な機会にもなります。ちなみにこれらのオリエンテーションで一緒の班になった仲間とは留学中も後も多少の関係を持つことにはなりません。ちなみに私は特に仲の良かった夏のオリエンテーションのグループで留学中に交換ノートをしていました。オーストラリアを出発しチェコ、ドイツ等ヨーロッパを渡り、南アメリカ大陸のブラジルに上陸しメキシコ、アメリカと北上しカナダに到着し再びオーストラリアへと帰っていく。なかなか壮大なスケールの交換ノートだと思いませんか？ 帰国後のオリエンテーションは基本的には遊びですが、多少留学先での体験を踏まえこれからどう生活していくべきなのか等を話し合うまじめな活動もあります。

オリエンテーションは楽しいのですが、書類への記入は基本的に苦痛の連続です。中には注射という肉体的な苦痛をもたらす凶悪な書類もあります。また、半分ぐらいの書類は日本語ですが、残りはアメリカから来た英語の書類です。中には対訳がついているものもありますがほとんどは英語オンリーです。自分で辞書と格闘しながら埋めていくこととなります。

上記のオリエンテーション、書類記入のほかにももちろん留学先の国の言語の勉強は必須となります。アメリカの場合は上記のSLEPの点数が良いほど留学先のホストファミリーが決まりやすい仕組みになっているので、その後も自分で勉強をし、もう1度自分でSLEPを受けました。また、AFSは地元支部（ボランティアにより運営されている留学生受け入れ事業を行うAFSの団体）の支部活動への参加も推奨されています。私は日本に来る留学生と一緒に浅草、上野を回る観光に行きました。

#### ・出発

出発は基本的にそれぞれの国に行く留学生が空港で集合して出発します。ただし、所定の日時までに留学先が決定しなかった場合など別々に個人で出発する場合があります。アメリカの場合は近年中国人、韓国人留学生の増加によりホストファミリーを探しにくい状況にあることがあり、なかなか留学先が決まらないことが多くなっています。また、アメリカは留学生の数が多く、シカゴ、ニューヨーク、ロサンゼルス、シアトル、アトランタの五組に分かれて出発します。空港の手荷物検査場を抜けるとあとは生徒だけで行動することになります。約半日間のフライトがその後1年間で大勢の日本人とともに一緒に過ごす最後の機会になります。

現地に到着後、それぞれの地域に向けて出発します。私の場合はシカゴの周辺への配属のために、すぐに現地のボランティアに連れられて到着後オリエンテーションの会場となるホテルに移動しましたが、シカゴから離れたバスで数時間かかるような場所に配属される人の場合、日本からの到着が他の国と比べて一番早かったので空港で、ほかの国からの留学生を一日近く待ってから配属地域まで移動することもあったそうです。

到着後オリエンテーションで現地での注意を受け、軽くほかの国からの留学生とコミュニケーションをとった後、いよいよホストファミリーとの対面になります。

(次回に続く)

## イングリッシュキャンプ

恒例となりました「イングリッシュキャンプ」の実施に向けてプログラム作りを始めました。詳細については後日発表致しますが、現在のところ、以下のように決まっています。

学校の夏期講習や様々なイベントもあるでしょうが、皆さんの参加をお待ちしています。

### ☆第一隊

8月17日(月)～19日(水)

中学2年生対象 100～110名

英語がやや苦手、英語に興味を持ちたいという生徒対象

### ☆第二隊

8月19日(水)～21日(金)

中学3年生、高校1年生対象 両学年で100名程度

英語に親しみ、英語を活用することを目的とする

### ☆第一・二隊とも長野県の菅平で実施

指導講師は全員ネイティブ(10人ほど)

## 理数系エンパワーメントプログラム

「理数系エンパワーメントプログラム」、あまり聞いたことのない名称ですね。これはISAが企画する、理数系に特化したグローバル教育の最新プログラムです。以下のような特色を挙げています。

- ▶化学の発展における、ポジティブシンキングの重要性を知る
- ▶リベラルアーツの理念に基づき、専門性のみを追求することの限界と、学際的なアプローチの重要性を学ぶ
- ▶グローバルな社会で、リーダーシップを取り、異なる国の人々と協働するために必要な力をつける
- ▶海外からの理数系の先輩大学生の夢や目標を聞いて、自らの可能性を広げる
- ▶議論はすべて英語で行われ、英語で自己表現をする力を養う
- ▶クリティカルシンキング、ロジカルシンキングを身に付ける
- ▶科学者としての倫理観について深く考える
- ▶現役東大生もしくは東大留学生によるキャンパスツアーや座談会を予定

実施日程 8月17日(月)～20日(木) 全4日間

対象生徒 高校1年～3年生(20人の申し込みで実施)

実施会場 東京大学 山上会館(東大本郷キャンパス内)

参加大学生 スタンフォード大学、カリフォルニア大学、東京大学他

費用 55000円

締め切り 6月8日(月)

詳細について知りたい場合は、グローバル教育部にお尋ねください。